

発掘された真田の城

沼田城跡

沼田市指定史跡沼田城跡
調査・保存整備事業の成果 1



令和元年（2019）

沼田城の概要 1

沼田城の位置と環境 / 沼田城の歴史 /
沼田城の構造 / 真田氏改易と破城 /
近代の公園整備 / 現在の沼田城跡 /
沼田城跡の歴史的価値

令和元年度の調査成果 7

調査・保存整備事業について /
『沼田城跡 2』の刊行 /
測量調査 / 地中レーダー探査 /
発掘調査

御殿桜 -コラム- 13

雲海に包まれる 天空の城下町



Numata City lies inland within the highlands of Japan, and where the winters are cold. The heart of the city sits upon a river terrace formed by the Tone, Usune, and Katashina Rivers. The fog in the cold snowy mornings is caused by the difference between the temperature of the air, and water.

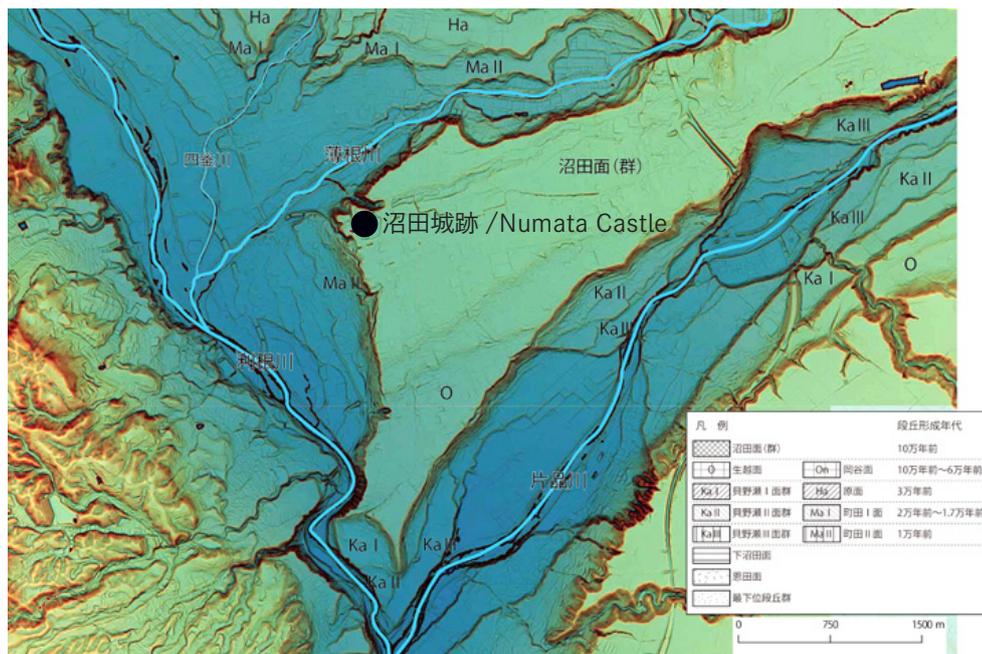
沼田城の概要

Numata Castle is located on one of the most famous river terraces in Japan. This terrace was formed 100,000 – 200,000 years ago. It is over 80 meters tall and has a beautiful view. The Numata family built Numata Castle in 1532. The Sanada family took over the castle in 1583, improved it, and built the town of Numata. But, in 1681, they left, and the castle was demolished. In 1916 Taminosuke Kume purchased the land, and designated that there be a park to preserve the historical monuments. He then donated this park, called Numata Park, to provide the people with a place to rest, relax, and study.

沼田城の位置と環境

沼田市は、赤城山、雨乞山、武尊山、迦葉山、戸神山、三峰山、子持山など、数々の山に囲まれた沼田盆地に位置しています。約20万年前頃、周辺の山から盆地内へ流れ込み、南へと流れ出ていた河川の流が赤城山の火山活動による火砕流によって塞がれて、盆地は大きな湖となりました。これを古沼田湖と呼びます。やがて、河川によって運搬される泥や砂礫によって古沼田湖は埋め尽くされました。この泥・砂礫層を「沼田湖成層」と呼び、現在も市内で観察が可能です。約10万年前から赤城山から多量の砂礫が流れ出し、沼田湖成層の上に扇状地となって堆積しました。これを沼田礫層といいます。扇状地の形成が止むと、流れ込む河川は地表をどんどん削り取り、深い谷地形を形成し、利根川・薄根川・片品川となりました。削り残された部分は高い沼田台地となり、何段もの美しい河岸段丘を作り出しました。

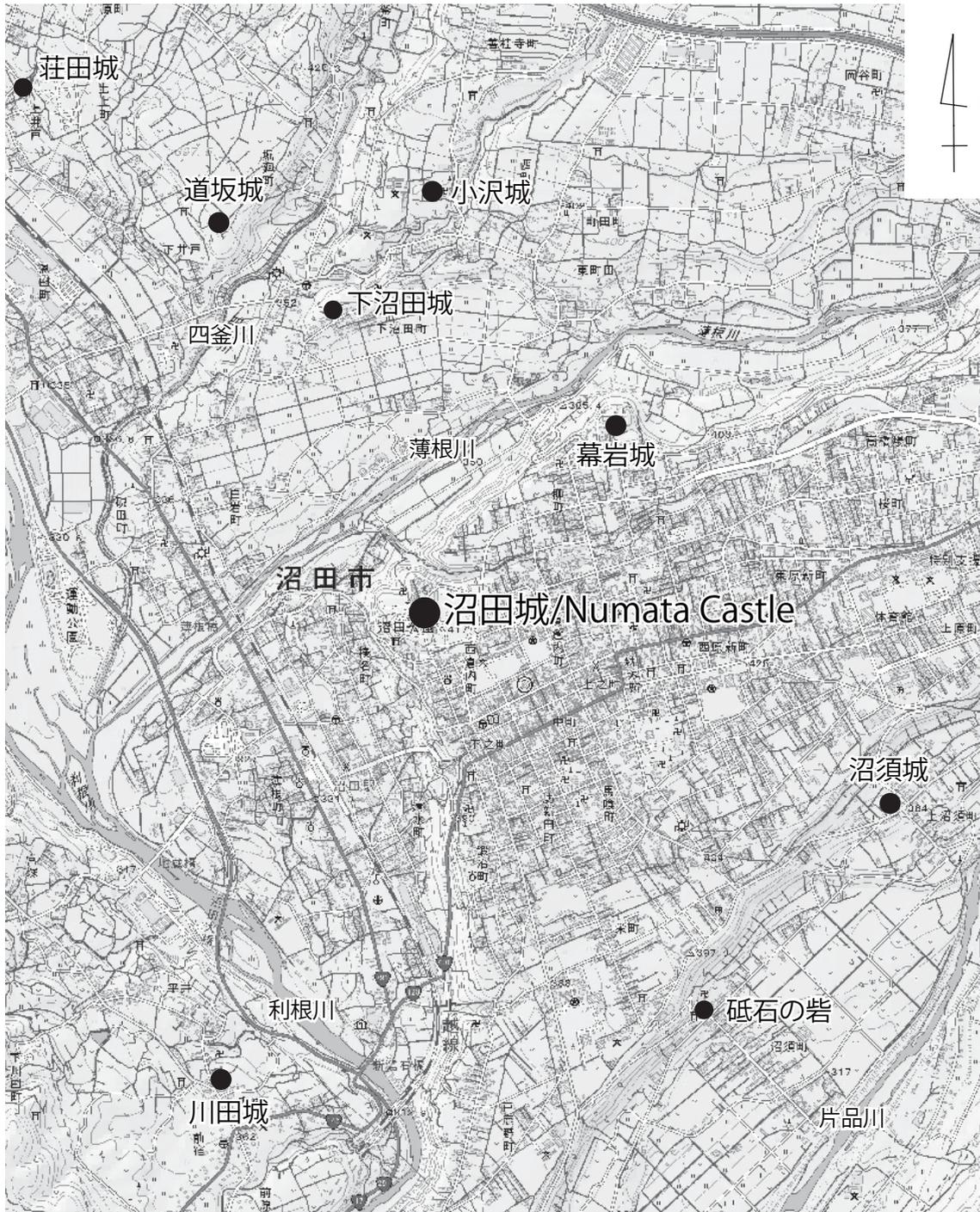
沼田台地の北西端、利根川と薄根川の合流点に面した台地の縁辺に沼田城跡は位置します。利根川・薄根川の低位河岸段丘面との比高差は約80mあり、北側及び西側の眺望が最も効く位置に当たります。



沼田城周辺の地形 / Geography around Numata Castle

沼田城の歴史

初めて現在の沼田城の場所に城郭を築いたのは、鎌倉時代から利根沼田地域の有力豪族であった沼田氏といわれています。沼田氏は利根川流域の荘園であった沼田荘の在地領主として活動し、はじめ荘田城（井土上町）に、応永12年（1405）に小沢城に移り、永正16年（1519）には、沼田台地縁辺の幕岩城に城を移しました。そして天文元年（1532）に沼田顕泰によって沼田城は築城されました。

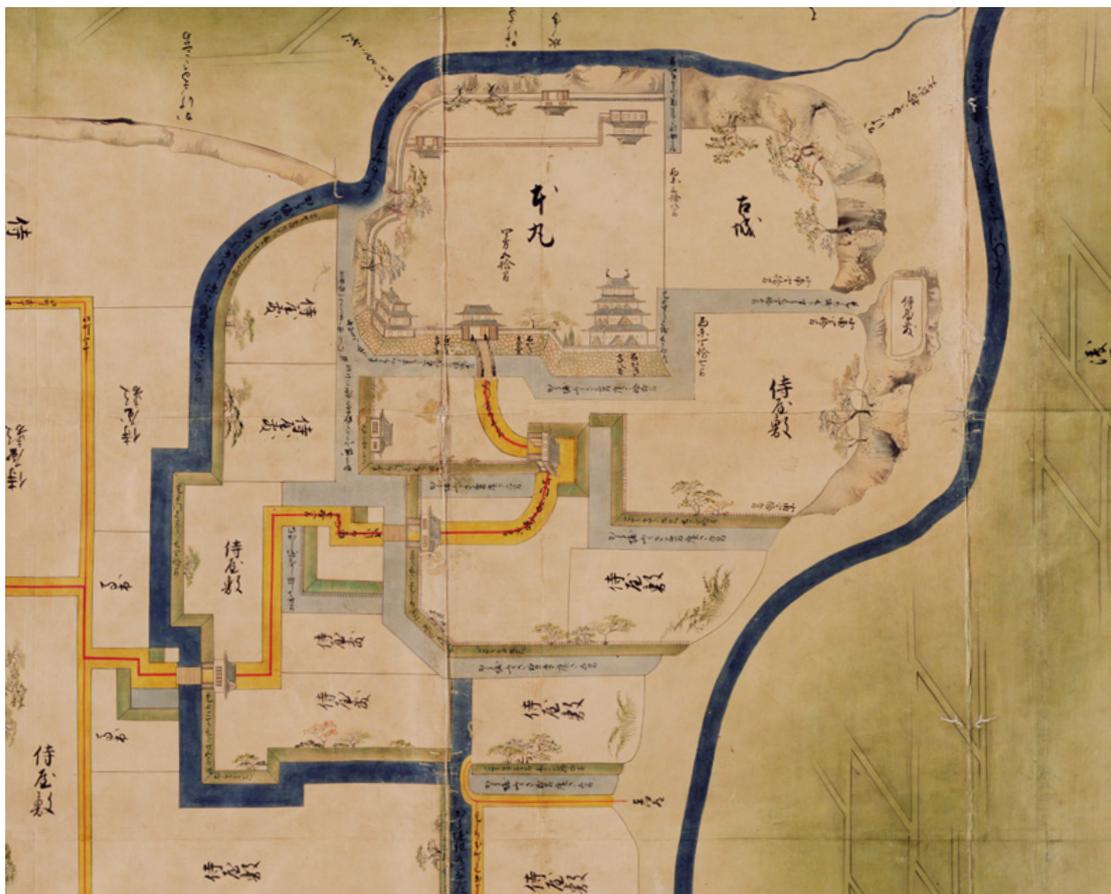


沼田城と周辺の城郭位置図 / Map of Numata Castle and environs / 1:25000

沼田顕泰によって築城された沼田城の構造は現在よくわかっていません。『平姓沼田氏年譜略』によれば、滝棚の原の北西の地に本丸を構え、東に南門塀堀を構え星那曲輪とし、また、東南に三ノ丸を、南東方向に無量蔵を祭るとあり、真田氏時代に古城と呼ばれる部分（現在下公園と呼ばれている）が本丸にあたり、その東南に星那曲輪、三ノ丸が続いたことが推定されます。

利根沼田地域は、室町時代から戦国時代中頃まで、越後上杉氏勢力と緊密な関係を結んでいました。戦国時代終わり頃になると、相模北条氏、甲斐武田氏の勢力が増して関東地方の情勢が緊張し、戦国時代末には、利根沼田地域は三者の勢力がぶつかる最前線となりました。沼田城は越後上杉市、相模北条氏、甲斐武田氏勢力の真田氏により争奪が繰り返されましたが、最終的に真田氏の属城となりました。

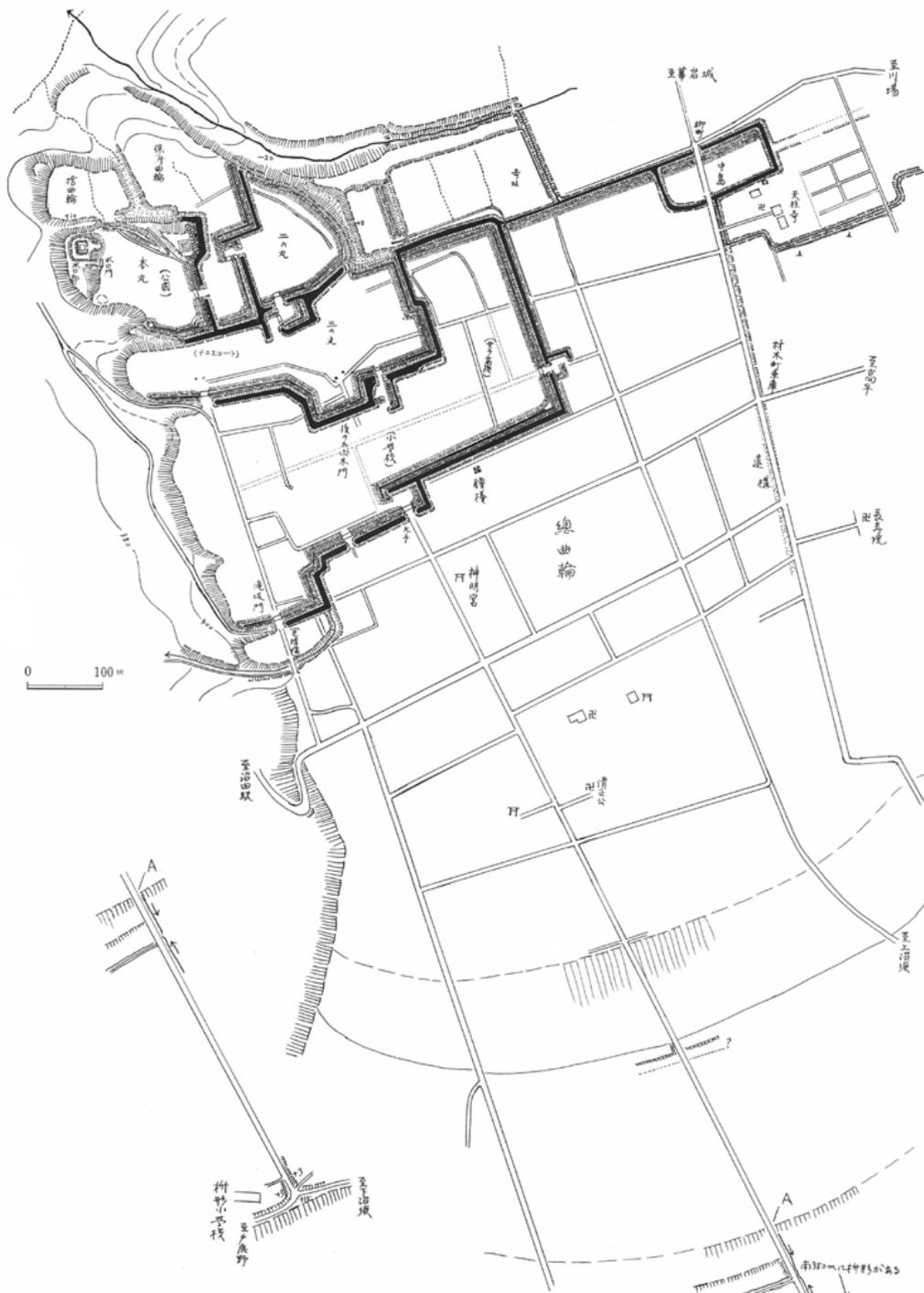
真田氏による沼田城整備は、真田信幸(後に信之)により進められました。天正 11 年(1583)に堀、土塁、大門など主要な施設を普請し、天正 13 年(1585)に入城、その後も普請は継続し、天正 14 年(1586)には二の丸、三の丸が整備されました。天正 18 年(1590)城の改修が行われ、本丸を中心にその東側に保科郭・二ノ丸、南東部に三ノ丸、さらにその外側に外郭が配されました。その南側に位置する城下町の整備も並行して行われ、天正 19 年(1591)に荒町・鷹師町・小人丁(町)を新たに設定し(『沼田町記』)、慶長 2 年(1597)に天守が竣工しました(『平姓沼田氏年譜略』)。慶長 17 年(1612)には大手枡形が築かれ、17 世紀初頭の段階で、沼田城は一定の完成をみました。



正保城絵図 上野国沼田城絵図(部分) 国立公文書館蔵
Shoho Shiroezu, illustrated map includes military information

沼田城の構造

江戸幕府が正保元年（1644）に諸大名に命じて作らせ、元禄九年（1696）に完成した正保城絵図に収められている『上野国沼田城絵図』は、最も信頼性の高い絵図面とされています。正保城絵図は、城の軍事的側面に注目した絵図面であるため描かれている施設は限られていますが、17世紀中頃の真田氏によって整備された沼田城の姿を知ることができます。沼田台地西端の崖端部に本丸を配置し、西辺は段丘崖となります。南、東、北は堀と塀で区画し、堀は北側の段丘崖へと抜けます。本丸石垣は本丸南東隅部から本丸北東隅部に至る東面部分



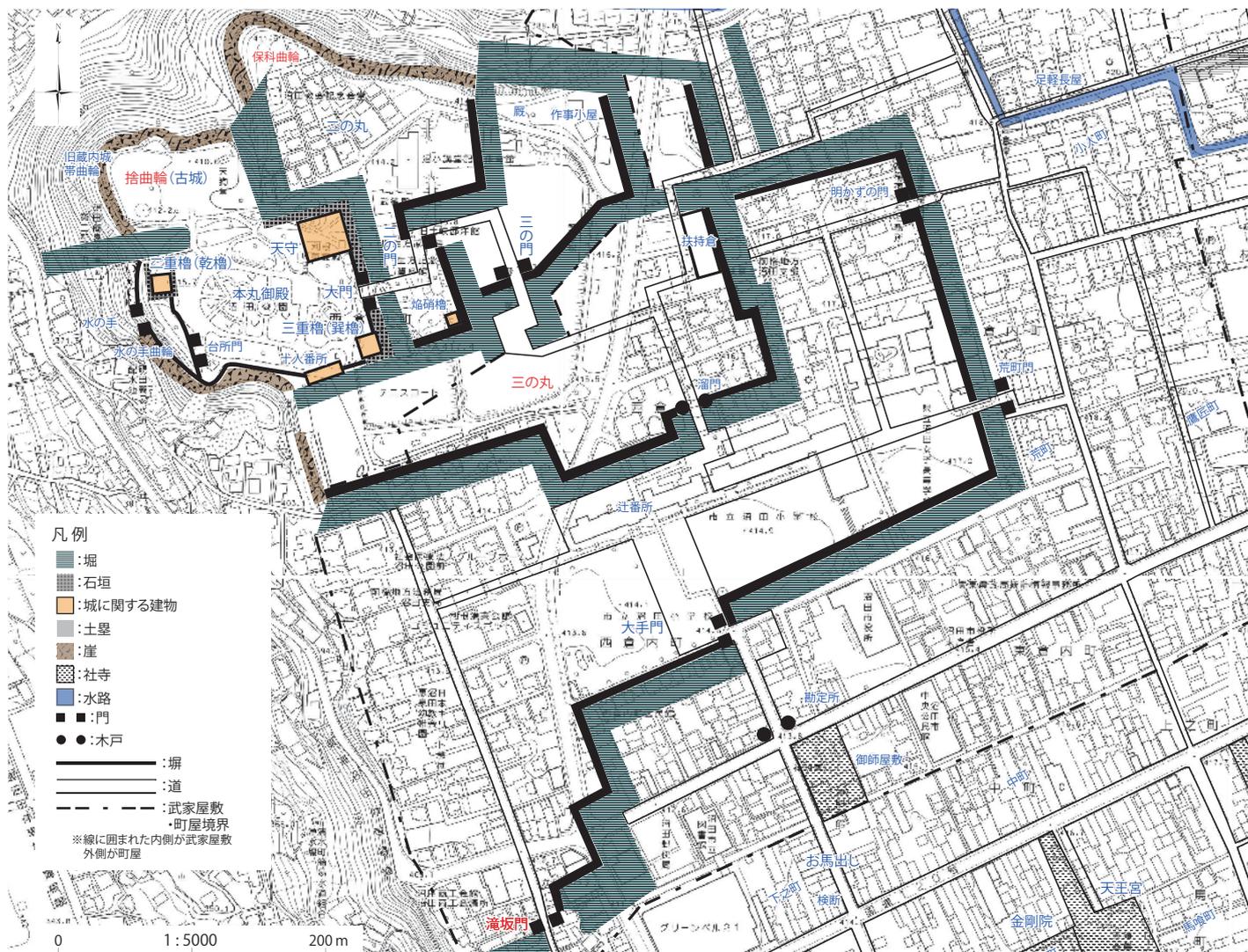
沼田城縄張図（山崎 一『群馬県古城壘址の研究』）/Map of Numata Castle by Hajime Yamazaki

のみ構築されています。本丸は東側に門を開き、北東隅に天守、南東隅に三重櫓、北西隅に二重櫓を配置しています。天守は一見四重に見えますが、描かれていない一重目の屋根の上に乗っている破風が描かれてることから、五重であるとされています。なお、下から三重目までの屋根には多くの千鳥破風が見られ、最上階には高欄が描かれており、回縁が巡っていたと推測されます。また『平姓沼田氏年譜略』には、天守は九間十間にして五重と記されています。

本丸の西側の一部は塀で区画され、更に西側段丘崖へ出る門が設置されています。本丸の北側は建物は描かれず「古城」とされ、真田氏整備以前の沼田氏時代の曲輪であることを想起させます。本丸の東側には南北に連なる曲輪、枡形を經由して更に西側に半円形の曲輪が続き、さらに枡形を抜けると東西方向に長い曲輪があり、ここまでが沼田城の中核部といえます。

真田氏改易と沼田城破却

天和元年（1681）真田信直（信利）の代に役目怠慢の理由から改易されると、翌年城は



現在の沼田市市街地と沼田城跡 / Numata Castle and present-day Numata
 (赤字：山崎『群馬県古城塁址の研究』による名称 青字：その他の資料による名称)

全て破却され堀も埋められました（『沼田城破却記』）。改易後約 20 年を経た元禄 16 年（1703）、本多正永が沼田藩主を命じられた際、堀や土塁は再構築されましたが、その後、黒田氏、土岐氏が藩主となった際には、三の丸に藩邸が建てられたに留まり、沼田城に天守や櫓が再建されることはありませんでした。



沼田公園造成時の様子 大正 5 年 9 月撮影（南東から）
Taminosuke Kume develops a Numata Park, photo taken in 1916
平坦地は本丸跡、手前は本丸堀跡、奥に若木の御殿桜がみえる

近代の公園整備

明治時代になり廃藩置県後、藩邸も取り壊され、門などの建造物や城郭用地は払い下げられ、一部は学校用地、民間住宅地となり、そのほとんどは荒地となっていました。これを憂えた元沼田藩士家の久米民之助は、大正 3 年（1914）私財を投じて、本丸・二の丸・三の丸の一部の用地買収を行い、大正 5 年（1916）から総合公園を造成、大正 15 年（1926）当時の沼田町にこれを寄贈しました。こうして公有地化された沼田城跡の一部は、現在まで都市公園、テニスコート、野球場など市民の憩いの場所沼田公園として利活用されています。

現在の沼田城

久米民之助による公園整備の後、昭和 30 年代にも沼田市による公園整備が行われました。また、時代に合わせて様々な設備の建設や改修が行われ、沼田城跡が城郭として機能していた時の姿はほとんど失われています。本丸跡は公園の中心部で、花壇や鳥小屋があり、桜やツツジの時期は特に賑わいます。西櫓台は往時の姿を伝える数少ない遺構で、石垣が全周し、御殿桜と呼ばれるヒガンザクラの老木が枝を伸ばしています。古城は下公園と呼ばれ、利根川、薄根川方面の視界がひらけ、段丘崖上の城郭の眺望の良さを存分に味わうことができます。本丸堀は東側の一部が残存し、本丸石垣を部分的に観察することができます。二の丸から三の丸は堀を埋め立て、グラウンド、テニスコート、駐車場、住宅として利用されています。外郭は市街地となりましたが、三の丸及び外郭の堀と土塁が住宅街に部分的に遺存し、わずかに沼田城の構造を示しています。

沼田城跡の歴史的価値

沼田市は昭和 51 年、沼田城と城下町の形成が、その後の市街地発展の礎になったという歴史的価値から、沼田城跡を市史跡に指定しました。さらに今日的視点で沼田城跡の歴史的価値を述べるならば、①全国的にも希少な大規模な河岸段丘崖に築かれた城跡で、自然環境との中で人々がいかに生きてきたかを物語っていること、②利根沼田地域は、越後上杉氏、相模北条氏、甲斐武田氏の勢力のぶつかり合う土地であり、沼田城跡はその歴史的証拠であること、③近代以降、城跡が公共空間として機能し、市民に憩いの場、活動の場、歴史を学ぶ場を提供し続けてきたことなどが挙げられます。

令和元年度の調査成果

In 2018 we started a new research project about history and structure of Numata Castle. This project is supported by Agency for Cultural Affairs Government of Japan, Gunma Prefecture, a committee of archaeologists and historians. In 2019 we reported on past excavations and conducted several surveys as follows. Topographic surveys, GPR(Ground Penetrating Radar), and an excavation of the main enclosure of Numata Castle. As a result, we found vestiges of pillars and many roof tiles, which show that Numata Castle certainly exists under Numata Park.

調査・保存整備事業について

沼田市教育委員会では、沼田市指定史跡沼田城跡の調査・保存整備事業を進めています。この事業は平成4年(1992)に計画された「沼田公園長期整備構想」に伴い、沼田城の構造や歴史について調査を実施するとともに、史跡の上位指定を目指す事業です。市内部に調査・保存整備委員会を設置し、城郭研究者等の専門家による専門部会と群馬県文化財保護課の指導のもと調査を実施しています。事業にあたっては国(文化庁)と群馬県からの補助金交付を受け6年間(平成30年度～令和5年度)の計画で行っています。

発掘調査をはじめ測量調査、出土遺物や絵図面、文献資料の調査など関連調査を実施し、最終年度にはそれらの調査をまとめた総括報告書を作成する予定です。

令和元年度の調査は、(1)平成27・28年度に実施した発掘調査の報告書『沼田城跡2』の刊行、(2)測量調査、(3)地中レーダー探査、(4)発掘調査を実施しました。

『沼田城跡2』の刊行

現在の調査・保存整備事業が始まる以前に、沼田市単独事業として、沼田城本丸東堀の確認調査(平成27年度)、本丸北堀の確認調査(平成28年度)を実施していました。その調査成果報告書を令和元年度事業として作成しました。

平成27年度の調査では、現在も露出しているいわゆる「アヒル池」の本丸東面石垣の北側延長部分を調査し、石垣を新たに8m検出しました。また、大正時代に使用されていた道跡も検出しました。土層断面図の検討から本丸堀が作り変えられた可能性が示唆されます。遺物は瓦が多く出土しました。

平成28年度の調査では、天守推定地付近から本丸北堀にかけ



平成27・28年度調査位置
Excavation point 2015, 2016



平成 27 年度調査で検出した本丸東面石垣
Stone wall of Numata Castle, 2015



平成 28 年度調査で調査した本丸北堀
Excavation point, 2016



平成 28 年度調査で出土した金箔片
Gold lacquered film, 2016

て調査し、石組遺構、ピット群、集石遺構を検出しました。また、調査地点の堀は非常に深く、底面を確認することはできませんでした。遺物は瓦が多く出土しました。特殊な遺物として、金箔付着の漆膜が出土しました。理化学分析の結果、和紙とみられる繊維状物質に朱漆が塗られ、表面に金箔が貼られたものと判断されました。沼田城内で用いられた調度、装飾の一部と考えられます。

測量調査

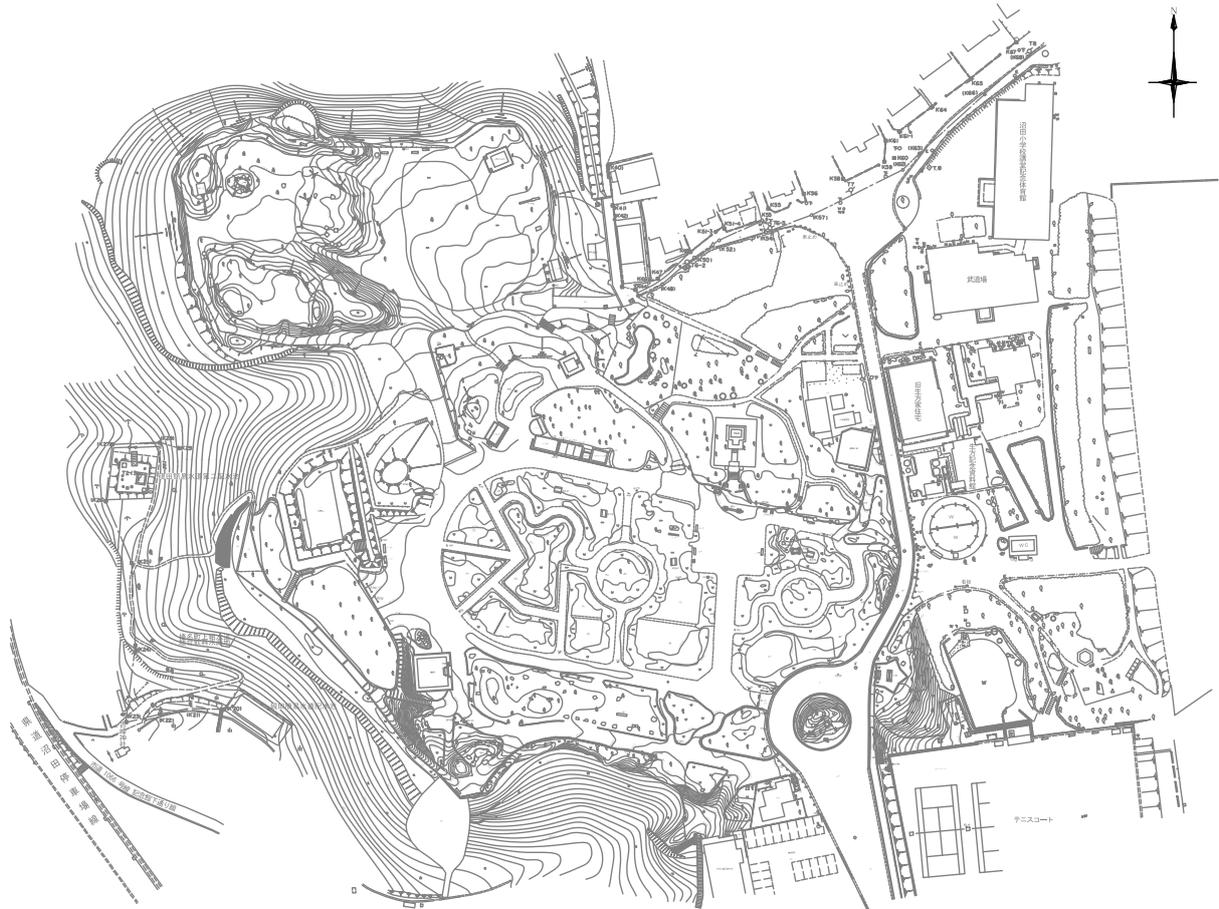
沼田城本丸跡（現在の沼田公園）の現地測量調査を実施しました。沼田公園の現状を詳細に地形測量し記録するとともに、そこに沼田城の構造物が痕跡として現れるかどうか探る調査です。平成 30 年度には沼田公園下公園（古城・捨曲輪）を同様に測量調査しています。

平成 30 年度に実施した沼田公園下公園（古城・捨曲輪）の測量では、西側部分が一段高い構造が明瞭になり、後述する地中レーダー探査の結果と考え合わせると、この部分に遺構が依存している可能性が高いことがわかりました。今後トレンチ調査を実施することで古城部分の遺構を明らかにできる可能性があります。

令和元年度に実施した本丸跡部分の測量では、現在の状況を詳細に記録する事ができました。本丸部分は沼田公園整備によりかなり改変されていますが、三重櫓が存在した本丸南東部分は旧状を示しているのではないかと考えられます。

地中レーダー探査

地中レーダー探査とは、電磁波を用いて掘削することなく地下の状況を調べる調査です。平成 30 年度から引き続きの実施で、三ノ丸堀跡と本丸堀跡の状況が発掘調査を実施するこ



平成 30 年度・令和元年度実施 沼田城跡本丸跡・古城地形測量図 /
Topography of present-day Numata Castle/1:2000

となくある程度把握することができるようになりました。現在市街地となっている三ノ丸堀跡は、現在埋め立てられてわずかに痕跡を残すのみですが、地中レーダー探査により、位置、幅、深さだけでなく、2時期ある可能性が示されました。本丸堀跡については、沼田公園テニスコート部分で実施し、これまでよりも詳細な位置の想定が可能となり、発掘調査への手がかりが得られました。

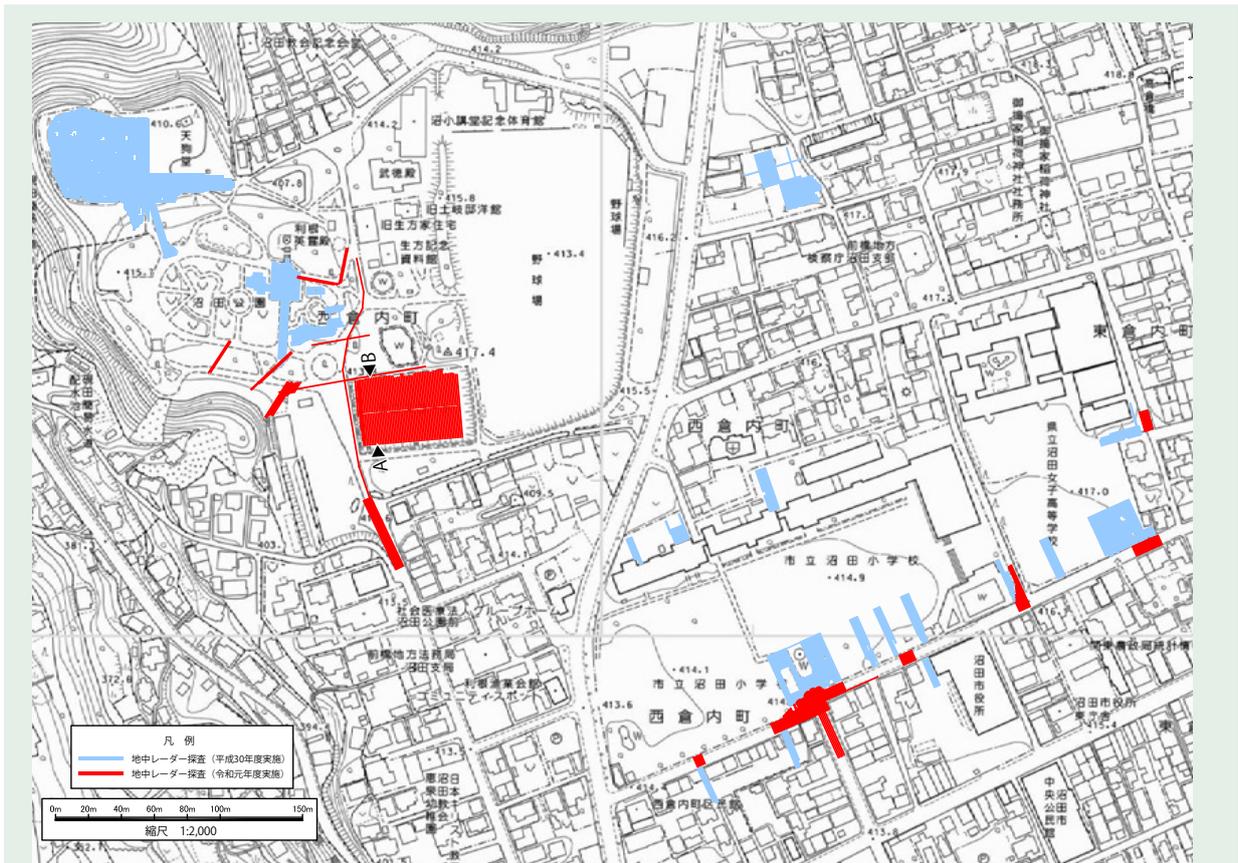
発掘調査

調査・整備事業として初めての発掘調査となる令和元年度は、本丸跡内で小規模な調査を実施しました。遺跡への影響を抑えるため5×9mの小規模な調査区を設置して発掘調査を実施したところ、以下のような成果が得られました。

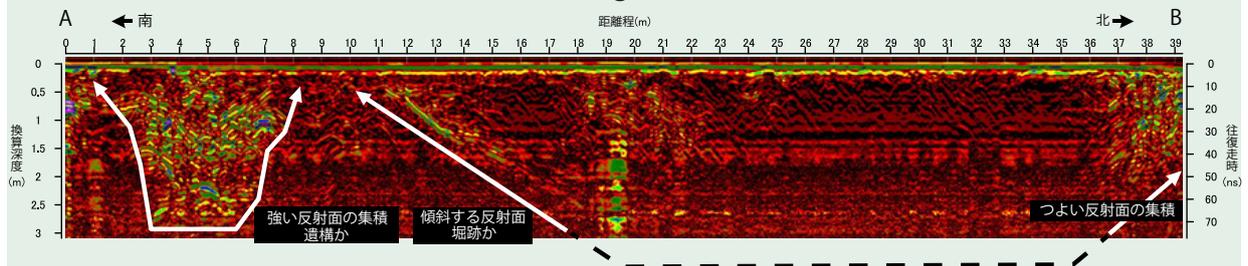
①現表土から約60cm下で瓦が集中的に出土しました。この瓦群は、おそらく真田氏による慶長初年の沼田城整備段階から万治・寛文頃（1660）にかけての瓦で形成さ



地中レーダー探査の様子
Ground Penetrating Radar



地中レーダー探査 平成 30 年度・令和元年度実施位置
Point of Ground Penetrating Radar,2018-2019/1:2000



令和元年度に実施したテニスコート内の地中レーダー探査結果 (部分)
Results of Ground Penetrating Radar

電磁波によって地中の「電氣的差異」を視覚化する。遺構の境など土質の違いや、礫などの物質に強く反射する。(弱) 赤<黄<緑<青 (強)

れています。瓦が年代的に幅を持つことから、城内の複数の建物に葺かれていた瓦がここに集められ廃棄された可能性が最も高いと考えられます。しかしながら、丸瓦・平瓦に対して軒丸瓦・軒平瓦の比率が高く、量的にはバランスを欠いているように思われます。

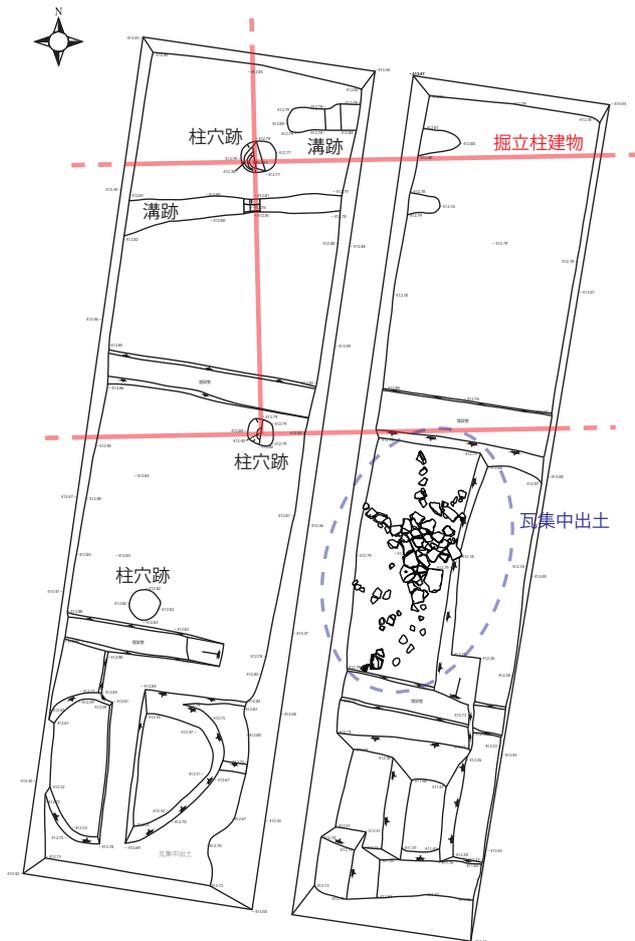
②瓦が集中して出土した地層の直下から、柱穴3基、溝2条が検出されました。現時点では遺物は出土していませんが、上記の瓦集中部よりも下にあることから、江戸時代の建物遺構である可能性がきわめて高いと考えられます。伝世する沼田城絵図の中には、猿ヶ京区所蔵絵図のように本丸内の建物が描かれたものがあります。本丸の南端の一画にあたる今回の調査地点で検出された建物遺構は、そうした絵図にみえる「十人番所」の可能性がります。しかしながら、今回の調査範囲からだけではこの建物の規模や配置を明らかにできないため、



令和元年度発掘調査位置図
Excavation point, 2019

建物の性格についても断定することはできませんでした。

③発掘調査に先立って実施したレーダー探査の結果から、調査地点には堀が存在する可能性があります。発掘調査はこの堀を確認することをも課題に含めて掘削を試みましたが、2 mほど掘り下げてさらに深くまで近世瓦を含む埋め土が続いており、堀であることを確定するには至りませんでした。しかし、この埋め土が堀を埋め戻したものである可能性は高いものと思われます。平成10(1998)年度の調査



令和元年度調査 平面図 /
Plane figure, 2019/1:80



令和元年度発掘調査 瓦出土状況 (北東から) /Roof tiles, 2019



発掘調査区全景（北から）/Excavation point, 2019



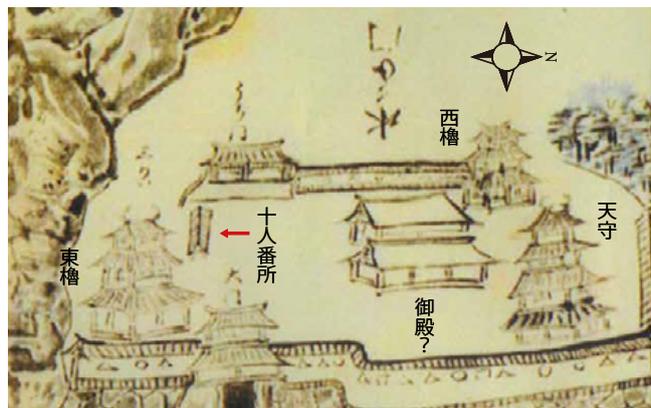
確認された柱穴（南西から）/Vestiges of a pillars



上州利根郡沼田城家中之図 部分 右が北
 (長国寺殿御事蹟付録四 長野県立歴史館蔵)
 Illustrated map of Numata Castle
 (Nagano Prefectural Museum of History)
 大門から本丸内へ入ると櫓、寺鐘、十人番所がみえる。

において、本丸南側縁辺部で南に面する石垣の一部を確認しています。このことから、南側には堀があると解釈していました。したがって、レーダー探査調査で新たに存在を推定した掘り込みが堀であるならば、近世のある段階では二重堀になっていた可能性があります。つまり、真田氏が入城した初期の沼田城の縄張は従来知られていたものとは異なっている可能性もあることを念頭において、今後の検討をしていく必要があります。

④沼田城は真田氏の改易によって本丸が破却されましたが、それ以降に入部した諸大名は本丸内に手を加えていなかったため、遺構の残りは良好であろうとも考えられてきました。そして、今回の調査地区では瓦の集中出土部分よりも上は久米民之助による公園造成により壊されていることが明らかになりましたが、それ以下ではむしろ公園造成時の土に覆われていたことにより予想よりも遺構面が良く残っていたと考えられました。今後は、公園建設段階の影響が沼田城本丸内全域にどの程度及んでいるかも確認する必要があります。



上野国沼田倉内城絵図 部分 右が北
 (みなかみ町猿ヶ京区蔵)
 Illustrated map of Numata Castle
 (Sarugakyo district, Minakami Town, Gunma Prefecture)
 大門から本丸内へ入ると左側に櫓、次に狭長な平屋の建物がみえる。屋根は板葺きか。

御殿桜 沼田に春の訪れを告げるヒガンザクラ



Goten-Sakura is one of the most famous trees in Numata City. It is over two hundred years old. People call it Goten(which means lord's house) Sakura because the tree lives in the main enclosure of Numata Castle. Goten-Sakura is also unlike the other sakura in the area that bloom at the end of March, because it is a higan-sakura that blooms in early spring, and is an indicator that spring has come. The fully grown Goten-Sakura's deep roots are destroying the stone wall of Numata Castle, so a decision must be made to either keep the tree, or the castle.

御殿桜の名で親しまれる老木

西櫓台から利根川を見下ろすように、太い幹が畝るように伸びている。沼田城本丸跡にあることから、御殿桜の名で親しまれているヒガンザクラの老木である。ソメイヨシノに比べ一足早く咲き、利根川対岸や下段からもよく見えることから、沼田に春の訪れを告げるサクラとして皆が注目する。久米民之助による公園整備の記録写真には、すでに御殿桜が写っており、樹齢は200年以上と考えられる。沼田城の姿を伝える数少ない遺構である西櫓台西面石垣に踏ん張るように生茂る姿は、沼田市と沼田城跡のシンボルとなっている。しかし老木故に樹勢の衰えが見え、樹木医により樹勢を保つための保護策が講じられ、東隣には2世となるヒガンザクラが若い枝を伸ばしている。

御殿桜の根が西櫓台西面石垣を内部から押し、長い時間をかけ石垣の形状を変化させ崩落の危険性が増している。シンボルとしてのヒガンザクラと貴重な遺構である石垣の保存という相反する課題に、今取り組んでいる。



御殿桜と西櫓台石垣 /Goten-sakura and the stone walls of Numata Castle

交通アクセス

- 名胡桃城跡から /from Nagurumi Castle 7.3km 13min (国道 17 号経由)
- 岩櫃城跡から /from Iwabitsu Castle 28.4km 47min (国道 145 号経由)
- 箕輪城跡から /from Minowa Castle 40.4km 45min (関越自動車道経由)、33.6km 57min (国道 17 号経由)
- 金山城跡から /from Kanayama Castle 80.1km 1h6min (北関東自動車道・関越自動車道経由)
68.3km 1h40min (国道 17 号経由)
- 唐沢山城跡から /from Karasawasan Castle 97.8km 1h16min (北関東自動車道・関越自動車道経由)
- 上田城跡から /from Ueda Castle 152km 1h59min (上信越・関越自動車道経由)
101km 2h25min (国道 145 号経由)



沼田市教育委員会文化財保護課
群馬県沼田市下之町 888 TEL0278-23-2111
発行日 令和 3 年 3 月 31 日 ver1.1